

※本イメージの権利は株式会社三省堂が有し、個人で利用される場合に限り許諾します。商用利用は固く禁じます。

新明解

国語辞典 第八版

新明解

国語辞典 第八版

新明解

国語辞典 第八版

ありがとう^{オカシ}〔^{アリガ}有り〕^ニ難う^イ(感) 感謝・お礼の気持ちを表わす言葉。〔関西では「大き」とも言う〕

いつも^ニ何時も^ニ(副) ①どの時・場合でもそうであって変わらない様子。②「ここにいてる人」③「お元気そうです」④「うまい事はばかりは無い」⑤それが特別の事ではなく、ごく日常的に繰り返し返されてる様子。⑥毎朝散歩する/休みが終わって/の生活に戻る/緊張せずに/通りやいなさい/の伝〔やり方〕で

*いよいよ^ニ〔^イ祝う〕(祝) ①「祝意」を述べる。②祝うための行事・贈り物。「おめでとう」③誕生④入学⑤卒業⑥結婚⑦快気⑧(造語) 動詞「祝う」の連用形。「事」⑩「歌」⑪「がえし」⑫「返し」⑬「返し」祝いのためにもらった品物のお礼として、相手に贈り物をする。

*いわづ^ニ〔^イ祝う〕(他五) ^ハなにか^ニたい事があるように祈る意。①めでたい事があった時、喜びの気持ちを言葉や行為に表わす。「雑煮」を「食」て、共に正月を無事に迎えたことを喜ぶ。②幸福・幸運であるように祈る。「門出」を「友人の結婚に鏡台を」③「贈る」④「祝い」

おおきに^ニ〔^オ大きに〕(副) ①「大きい」の文語形。「迷惑だ」②(感) 〔各地の方言。特に関西で好んで使う〕ありがとう。

おかえし^ニ〔^オお返し〕(御返し) ①お礼として、贈り物をする。②「返し」お祝いの品。③「返し」報復。「この返しは必ずしてやる」④店の者が客に出すおつり。「二百円です」

おせわ^ニ〔^オ御世話〕「世話」の丁寧語。「滞在中は彼の」①になった「お客様の」を「用」(1)「お世話になりました」の形で、他人の家を辞去する際の挨拶として用いられる。(2)「お世話様(でした)」の形で、相手の労に対する感謝の気持ちをこめた言葉として用いられる。(3)「いらぬ(余計な)お世話」大きなお世話などの形で、自分にとってはわずらわしい相手の親切を非難したり皮肉ったりするのに用いられる。(4)「お世話に与りまます」などの形で、これから御厄介をおかけすることになるという気持で、目上の人に対する挨拶として用いられる。

おつかれ^ニ〔^オ御疲れ〕「(相手)が疲れていること」の意の尊敬表現。「の様子」①「お疲れ様」の形で、同輩以下に対するねぎらいの言葉として用いられる。例、「遅くまでお疲れ様でした」

おめでとう^ニ〔^オおめでとう〕(感) ①「↑おめでとうございます」②「喜ぶ」と(新年)や、成功したこと、また勝利を得たことを祝う言葉。表記「御目出度う・御芽出度う」は、借字。

おれい^ニ〔^オ御礼〕感謝の気持ちを表わすこと(挨拶)・贈り物。「がえし」①「返し」②「返し」人から受けた贈り物や世話に対するお礼の贈り物(を贈ること)。

かたじけない^ニ〔^カ忝ない〕(形) ①「ない」は形容詞を形作る接辞「期待以上の好意を受けて、感謝に堪えない気持だ」②「愛顧を忝なくする」③「格別私どもをひいきにしていただいて、ありがたく思っています」④「忝のうする」はこの変化形「忝なくも」⑤「ありがたいたいこと」⑥「過分のおおほめにあずかった」⑦「さ」⑧「が」⑨「る」⑩「表記」(「忝ない」とも書く。文法 助動詞「そ」だ(様態)に続くときは「かたじけなさうだ」の形になる。また「すぎる」と結びついて複合動詞をつくる場合は「かたじけなさる」の形になる。

**かんしゃ^ニ〔^カ感謝〕①「自他サ」^ハなにか^ニたい事ありがたいと思ふ気持ちを抱く(思)て礼を言うこと。恩師に「する」②「をさげる」③「の念」④「セール」

**きねん^ニ〔^キ記念・紀念〕①「自他サ」②「ハ」^ハなにか^ニたい事思い出のために残しておくこと(物)。関係者に「の」万年筆を贈る(創立三十年の)出版(品)③「長く忘れることがないように(過ぎ去った日の)記憶を新たにすること」④「行事」⑤「一日」

ことぶき^ニ〔^コ壽〕「ことぶき」の変化という慶事を喜び祝うこと。「お祝いや長生きを願う気持ちを表わして、ふろしきなどに書く」①「新年の」

ことぶく^ニ〔^コ壽ぐ・言祝ぐ〕(他五) 〔「言祝ぐ」意〕何かを祝って喜びの言葉を言う。「長寿を」①「名壽ぎ」②「サンキュー」③(感)「Thank you」相手に感謝する気持ちを表わす語。ありがとう。

しゅうしよく^ニ〔^シ就職〕①「自サ」新しく職を得ること。「一口」を世話する①「難」④「戦線」⑤「↑退職」

しゅく

〔祝〕 喜び、いわず。「祝宴・祝福・祝賀・祝辞・祝典・祝杯・慶祝・奉祝」

しゅつせ^ニ〔^シ出世〕①「自サ」②「も」が衆生済度のため、この世に生まれ出る意(社会での(高い)地位を得ること)。「古くは、書生が社会人になることを指した」③「が早」④「頭」⑤「立身」

しんがく^ニ〔^シ進学〕①「自サ」②「上級の学校に進むこと」③「熱をかりたてる」④「指導」

しんきゆう^ニ〔^シ進級〕①「自サ」②「等級・学年が進むこと」

しんしゃ^ニ〔^シ深謝〕①「自他サ」心からの感謝する(わびる)こと。

*そつぎょう^ニ〔^ソ卒業〕①「自サ」②「(事業)を完了する意」③「より高い程度の課程に進んだりある資格を得たりするために」規定のその学科課程を終えること。「授業には」④「は」あるが、学問には「これ」⑤「という」こと無し⑥「式」⑦「証書」⑧「生」⑨「演奏」⑩「製作」⑪「旅行」⑫「↑入学」⑬「思うところがあって、それまで続けてきたことをやめること」⑭「教師づとめを」して作家稼業に専念することにした

たしや^ニ〔^タ多謝〕①「自サ」②「厚く礼を述べた意を表わす語」③「丁寧に謝罪する意を表わす語。多罪」「安評」④「とも手紙文などで用いられる」

*にゅうがく^ニ〔^ニ入学〕①「自サ」②「(児童・生徒・学生として)学校(の第一学年)に入ること」③「式」④「試験」⑤「越境」⑥「↑卒業」

まえいわい^ニ〔^マ前祝い〕①「自サ」②「成功・成立を見越して、前もって祝うこと」

メルシー^ニ〔^メ merci〕ありがとう。